夏目漱石も愛した花「木瓜」（4月の自然庭園では）～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター・みぬま見聞館のトピックスを紹介をします。

夏目漱石も愛した花「木瓜」（4月に自然庭園で観察できる動植物について）

3月26日17時45分ころに、City FM さいたま REDS WAVE 「イブニングパス」番組内のさいたまトピックスで放送された内容について、以下に掲載します。

みぬま見聞館の自然庭園では、その昔、蚕の餌となる桑の葉をとる月という意味の木葉採月（このはとりつき）を迎え、日の光も1日1日明るく暖かくなってきているように感じます。
今月は、そんな自然庭園で、遊歩道沿いに赤い色の花を咲かせる「ボケ」についてお話をさせていただきます。

「ボケ」は、バラ科ボケ属の中国原産の落葉低木で、赤色のほかにも白色やピンク色、オレンジ色などの花を咲かせる種類もあるそうです。
名前の由来は、秋に瓜（うり）に似た果実をつけることから、木になる瓜と書く木瓜（もけ）からと言われています。

花言葉には、「先駆者」とか「早熟」などがあり、「先駆者」は、織田信長の家紋の一つがボケを使っていたことから、「早熟」は、ボケの中国での呼び名でもある放牧の放（ほう）に春の花と書く放春花（ファンチェンファ）の、どの花よりも早く春の香りを放つ花という意味からだと言われています。
「ボケ」の実は、クエン酸などの有機酸を多く含み、「酸っぱい実」を意味する「しどみ」の別名で呼ばれることもあり、香りも良いことから果実酒やジャムを作ることもあるそうです。

「ボケ」は、古くから多くの詩（うた）に詠まれていて、万葉集にも、たびたび登場する「あしび」は、馬に酔う木と書く馬酔木（あせび）ではなく「ボケ」のことだとする説もあるそうです。
他にも、明治時代以降は正岡子規や夏目漱石などが好んでボケの花を詠っているようです。

また、神社の家紋である神紋（しんもん）にも「ボケ」は使われていて木瓜紋（もっこうもん）と呼ばれる神紋は、京都の八坂神社などスサノオノミコトを祭る神社に使われているそうです。
ちなみに、さいたま市の氷川神社もスサノオノミコトを祭っていますが、こちらは八岐大蛇（やまたのおろち）の神話に由来する八雲紋（やくももん）だそうです。

学名の「Chaenomeles」（カエノメロス）はギリシャ語の大口を開けるという意味のchaino（チェイノ）とリンゴを意味する melon（メロン）からで、果実（りんご）が割れるという意味になるそうで、「ボケ」の花の形を表しているようです。

最後に「ボケ」を詠った詩（うた）として、中国最古の詩集と言われている紀元前1000年頃の周の時代に編纂された「詩経」（しきょう）から一句紹介させていただきます、「我（われ）に投（とう）するに　木

瓜(ぼくか)を以（も）てす　報（ほう）ずるに　瓊琚(けいきょ)を以（も）てす　報（ほう）ずるに匪(あら)ざるなり　永（なが）く以（も）て　好（こう）を為（を）さむとてなり」。
意味としては、「あなたが木瓜の実を私に投げてきたので、お返しにきれいな宝玉（ほうぎょく）を渡しましょう、お礼ではなく、あなたとずっと仲良くしていたいので」、といった意味でしょうか。

令和7年3月29日（土）以降、みぬま見聞館は、リニューアルのうえ開館する予定です。 はるか昔、恋心を伝えるためにも使われた「ボケ」の花を見に「みぬま見聞館」の自然庭園を是非訪れてみてはいかがでしょうか。職員一同お待ちしております。

ボケの花

ボケの花

ボケの花

ボケの若い実

ボケの実

シロヤマブキ
花弁は4枚

アケビの花（め花）

長いめしべと、花弁のように見えるのはがく。

ムベの花

こちらも花びらのようにみえるのはがく

アメリカヤマボウシ（ハナミズキ）

アメリカヤマボウシ（ハナミズキ）

ヒトリシズカ

静御前からつけられた名前…

ウラシマソウ

うらしま太郎のように見える…

ツクシ

	食べられる野草のひとつ		